

同志社大学〈英語〉入試分析

② 同志社大学

問題 全日程・全学部で同様の出題形式 過年度も大きな変動はない

ただし、1999 年度以前の問題は長文(評論文)問題のみの出題になっていて、その問題形式も一部変わっており、会話文・英作文がないので、注意。

概要 試験時間100分 200点満点(学部差あり) 問題数50問 大問数は3問
およそ80%がマーク式、残り20%の和訳と英作文が記述式である。

大問〔1〕 長文読解＋日本語訳

大問〔2〕 長文読解

大問〔3〕 会話問題＋英訳

傾向と対策

大問1・2の長文2題は、約900語・約700語とかなりの分量です。

時間配分としては、各1題につき35分、下線部和訳問題に書ける時間を5分、合計75分で解きます。

長文のテーマは様々な分野から出題され、論文やインターネットの引用から、時事的な記事の出題も多いです。ただし、個別学部試験に関しては、各学部向けのテーマを扱っていることもあります。

空所補充と下線部一致について

単語や熟語・あるいは文法の知識が問われますが、問題のタイプとしては

①知識だけで解く問題

②知識と文脈両方考える問題

③文脈で判断する問題

の三種類があって、①と②のタイプの問題は合格点を取るのに必須です。

③の文脈型問題も中には難しい問題がありますが、空欄補充の方は簡単で、文脈をしっかりと読みこんでいたら解ける問題が多いです。

論理展開を表すマーカー(接続詞・接続副詞・前置詞群など)を空欄に入れる形で聞いてくるので、それを一通りしっかり覚えておくこと。

また、下線部一致問題で、単語の語彙力を知らなくてもその空欄部分の言わんとすることをしっかり読み込んだら解ける問題もよく出題されるので、それを確実に得点できるよう過去問で練習してください。

他の問題に共通して言えることですが、解き方としては

a.空欄(もしくは下線部)を含む一文をしっかり意味を押さえる。

b.空欄(もしくは下線部)の前後の文のつながりを意識して解く。

空欄の近くを見れば解ける問題が多いとよく言われますが、もちろん該当箇所が離れていることもあるので注意。

同志社大学〈英語〉入試分析

内容説明問題に関して

この下線部内容把握問題も上記と同じように

- ①知識だけで解く問題
- ②文法で考える問題
- ③文脈で判断する問題

の3パターンに分かれ、だいたい①が45%、②が22%、③33%くらいの確率で出題されます。

①と②なら確実に得点にできるようにしてください。この解き方も上記と同じように

- a. 下線部だけでなくそれを含んだ1文の英文の意味をしっかりと確認する。
- b. 下線部と前後の文のつながり方を確認してから問題を解く。

この問題自体、言ってしまうと英文解釈の問題なので、まず、下線部をしっかりと分析することが大事になってきます。

それから選択肢を見比べるときに、単語や熟語、文法などの知識の1ポイントだけで解答が決まることが時々あります。こういった問題で得点を稼いで下さい。

また、③のパターンに関しては、下線部とその周辺の文との関係に注目して読んでください。特に論理展開を示す表現や指示語などに注目して、話の流れをつかんでから問題を解いてください。

また、指示語が入っている問題では、指示語や代名詞が何を指しているかを確認し、それを代入してから読むようにしてください。これを意識するかしないかで読解の精度や正答率も変わってきます。

英文完成問題について

本文の一部の文から、3か所の空欄の中から適切な語句を入れる問題です。上記の①とやや②寄りのタイプで、純粋な文法の独立問題なので、ここは知識さえあれば解けるものになっています。

内容一致問題について

選択肢8問の中から3つ選ぶ形式の問題。この配点は高いと予想されるので、3問中2問は最低できてほしいところです。

長文の客観問題はもちろん、文法問題でも、4択問題に関しては消去法で解くのがおススメです。正解の選択肢は本文の表現を言い換えています。

簡単な問題は別として、本文そのままの表現になることはほぼないですし、その言い換えは極めて巧妙にできています。

なので、本文の解答の根拠を見つけて、それと選択肢を見比べても、選択肢によってはこれが正解だと断定できないこともあります。

同志社大学〈英語〉入試分析

そこで、この消去法を使って、本文の該当箇所からこの選択肢は×、というようにすべての選択肢に理由を付けて消して、この選択肢は正解かも知れないし、×ではないけど微妙だと思ふものは一旦保留にしていって流れで解いてください。

その残った選択肢が正解になります。この解き方をマスターすれば、センターや他の大学の客観問題でも使えるのでこの消去法はおススメです。

下線部和訳について

下線部和訳問題に関しては、標準レベルがほとんどなので、問題によっては満点が狙えます。

採点基準が不明瞭なので、確かなことは言えませんが、重要な文法や構文を見落としている訳を書いた場合は0点になり得るので、注意が必要です。

この下線部和訳の解き方としては、まず下線部の英文構造をマークして、その構造がちゃんとわかってから訳してください。

訳す時は、基本直訳から考えて、それでヘンな日本語になるのであればその直訳と意味がずれないように、不自然な部分だけ訳を工夫してください。

大問3 会話文 空所補充と英作文について

同志社大学の会話文の問題は標準レベルの出題なので満点を狙えます。

会話長文で、その中の空欄補充問題が4問になっています。

難しい会話表現の知識が問題で聞かれることはないです。

基本レベル頻出の会話表現はしっかり押さえてほしいですが、それだけじゃ不十分。

会話表現の暗記よりも重要なのは会話の流れをしっかり押さえるということです。

具体的には文法や指示語などに注目しながら読解するのがポイントになっていきます。

英作文は、日本語文が2文程度、あるいは3文程度の長さで出題されます。

国公立のように「自由英作文」の問題ではなく、「和文英訳」の問題になっています。

なので、それほど難易度は高くないと言われてはいますが、なかなか満点をとることはできません。

その理由は和文が「口語体」つまり「書き言葉」ではなく「口語」つまり「話し言葉」になっているからです。

書き言葉であれば、すなわち文字通り簡単な単語や文法を使って、安易に英作できます。

しかし、話し言葉になっていることで、難易度が一気に上がります。

例えば、「そうなってくれれば嬉しいんだけどね」という口語には「けど」という日本語が入っていますが、逆接のニュアンスは入っていませんよね？

しかし、これをそのまま日本語にすると、「but」という風にしてしまいます。

このように文字通りに追うのではなく、口語になっている和文の意味を考えるようにしてください。